

【普通作物】の【降灰】対策について

<通年>

宮崎県総合農業試験場専門技術センター

【水稻】

(1) 予想される被害状況

- ① 用排水路で大量の灰が集積すると水路が機能しなくなる。
- ② 育苗用土の確保が困難になったり、ハウスの光透過が悪くなる。
- ③ 屋外にある育苗箱等では、降灰が堆積し苗生育に影響の恐れがある。
- ④ 本田に多量の降灰があると、土が砂質状態になり水持ちが悪くなる。
- ⑤ 出穂期に多量の降灰があると、不稔が発生する場合がある。
- ⑥ 機械作業時では、機械の吸気システム等の故障が懸念される。

(2) 事前対策

- ① 育苗用土の確保や、育苗施設への降灰に対する備えとして、ブロワー・動力噴霧器等の整備や点検を行っておく。
- ② 苗箱に降灰の恐れがある場合は、被覆するなどして降灰を防ぐ。

(3) 事後対策

- ① 用排水路で灰が堆積する場所では、早めに水路の補修や除灰などを行う。
- ② 本田に多量の降灰があり、砂質状態になったところでは、除草剤による稲への影響が懸念されるので、薬剤選定や散布時期等に注意する。
- ③ 茎葉に多量の灰が付着していると生育に影響したり、開花期頃では不稔が多発する恐れがあるので、速やかに払い落とす。
- ④ 機械作業時は、株に付着した灰をできるだけ払い落とし、機械の吸気システムや刈取り刃の清掃・整備に努める。
- ⑤ 収穫後も、収穫物に灰の混入や付着が無いよう注意する。
- ⑥ 使用後の機械や乾燥施設等の清掃・整備を十分行う。

【大豆・ムギ・ソバ】

（１）予想される被害状況

- ① ほ場に多量の降灰があると、土壌が酸性となる場合がある。
- ② 生育中に多量の降灰があると生育が不良になったり、開花期では不稔が発生する恐れがある。
- ③ 機械作業時に、株に灰が付着したまま防除や収穫等の機械作業を行うと、吸気システム等の故障が懸念される。

（２）事後対策

- ① 播種前に土壌分析を行い、酸度（pH）の調整を行う。
- ② 茎葉に多量の灰が付着していると生育に影響したり、開花期頃では不稔が多発する恐れがあるので、速やかに払い落とす。
- ③ 機械作業時は、株に付着した灰をできるだけ払い落とし、機械の吸気システムや刈取り刃の清掃や整備に努める。
- ④ 収穫後も、収穫物に灰の混入や付着が無いよう注意する。
- ⑤ 使用後の機械や乾燥施設等の点検、清掃、整備を十分行う。